

❖ 日本は2四半期連続で暗号化型ランサムウェア (身代金ウイルス) の標的になった国のトップに ❖

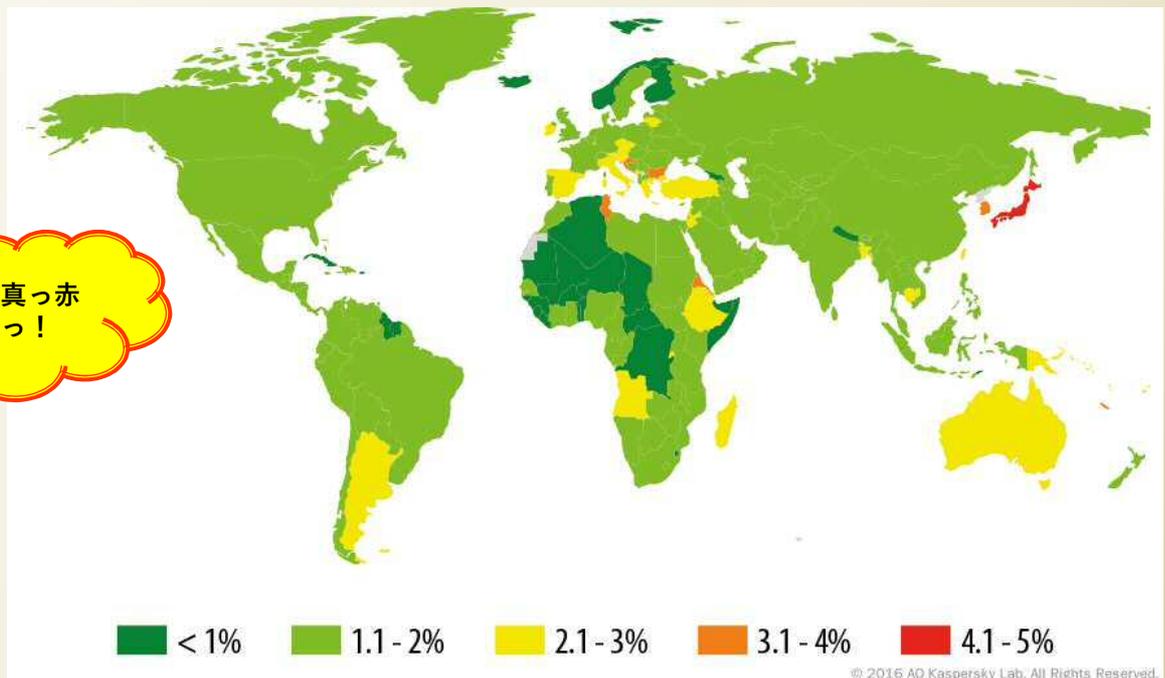
< Kasperskyサイバー脅威レポート：2016年7月～9月 >

暗号化型ランサムウェアの攻撃を受けたユーザーは82万人にのぼり、2016年4月～6月の2.6倍に

Kaspersky Labがまとめた2016年第3四半期（7月～9月）のサイバー脅威レポートによると、暗号化型ランサムウェアに遭遇したユーザー数が821,865人にのぼり、2016年第2四半期（4月～6月）比2.6倍となりました。

暗号化型ランサムウェアは、感染したデバイス上のファイルを暗号化して、復号と引き替えに金銭を要求するマルウェアです。攻撃のためのプラットフォームが整い、高いスキルも不要なうえ、投資対効果も高いため、現在もっとも蔓延しているマルウェアの1つです。

世界中で猛威を振るう中、もっとも多くランサムウェアの攻撃が確認された国は、前四半期から引き続き日本でした。カスペルスキー製のユーザーの4.83%が攻撃に遭遇し、第2四半期の2.4%から2倍に増加しています。2位はクロアチア（3.71%）で3位は韓国（3.36%）でした。



暗号化型ランサムウェアは、依然として個人と法人の両方にとって、最も危険な脅威の1つです。攻撃を受けたユーザーが増加した原因は、ランサムウェアの亜種の急増だと考えています。また、第3四半期に検知したランサムウェアの亜種は32,000以上で、第2四半期の3.4倍以上にのぼりました。その要因はおそらく、セキュリティ企業によって、ランサムウェアの新たなサンプルが短期間で検知可能になったことだと思われます。犯罪者はセキュリティ製品による検地を少しでも回避するために、ランサムウェアの新しい亜種を作成し続けなければならないとされています。

参考資料：KASPERSKY lab

※ 今月の豆知識 ※

❖ 2016年の冬至は12月21日(水)です！ ❖

冬至（12月21日ごろ）とは北半球において太陽の位置が1年で最も低くなる日で、日照時間が最も短くなります。太陽の位置が1年で最も高くなる夏至（6月21日ごろ）と日照時間を比べると、北海道の根室で約6時間半、東京で約4時間40分もの差があるのです。

◆ 冬至は運が上昇する日 ◆

冬至には『**ん**』のつくものを食べると『**運**』が呼びこめるといわれています。**にんじん、だいこん、れんこん、うどん、ぎんなん、きんかん**・・・など『**ん**』のつくものを**運盛り**といい、縁起をかついでいたのです。運盛りは縁起かつぎだけでなく、栄養をつけて寒い冬を乗りきるための知恵でもあり、土用の丑の日に『**う**』のつくものを食べて夏を乗りきるのに似ています。また、「いろはにほへと」が「ん」で終わることから、「ん」には一陽来復の願いが込められているのです。

◆ なぜ、かぼちゃを食べるの？ ◆

かぼちゃを漢字で書くと南瓜（なんきん）。つまり、運盛りのひとつであり、陰（北）から陽（南）へ向かう事を意味しています。また、かぼちゃはビタミンAやカロチンが豊富なので、風邪や中風（脳血管疾患）予防に効果的です。本来かぼちゃの旬は夏ですが、長期保存が効く事から、冬に栄養をとるための賢人の知恵でもあるのです。



◆ なぜ、柚子湯に入るの？ ◆

柚子（ゆず） = 『融通』がきく、冬至 = 『湯治』。こうした語呂合わせから柚子湯に入ると思われていますが、もともとは**運を呼び込む前に厄払いするための禊（みそぎ）**だと考えられています。昔は毎日入浴しませんから一陽来復のために身を清めるのも道理で、現代でも新年や大切な儀式に際して入浴する風習があります。冬が旬の柚子は香りも強く、強い香りのもとには邪気がおこらないという考えもありました。端午の節句の菖蒲湯も同様です。

また、柚子は実るまでに長い年月がかかるので、長年の苦勞が実りますようにとの願いも込められています。もちろん、柚子湯には血行を促進して冷え性を緩和したり、体を温めて風邪を予防したり、果皮に含まれるクエン酸やビタミンCによる美肌効果があります。さらに、芳香によるリラックス効果もありますから、元気に冬を越すためにも大いに役立ちます。



参考資料: All about 暮らし

※ information ※

弊社では、Office365Businessをお勧めしております。
また、情報セキュリティ対策でご心配や困ったこと等がございましたらお気軽に弊社までご相談下さい！
情報セキュリティに関する国家資格を持ったスタッフが、親身に対応させていただきます！